



ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2026年2月

販促・魅力発信

- 1月23～25日の3日間、大阪府堺市の「大起水産 まぐろパーク 堺本店」にて、相双機構の主催で、**福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店**。昨年に続き2回目の開催。
- 本イベントでは、**福島県の水産加工業者等6社の商品18品を販売**。また、マル六佐藤水産の「ボイル柳たこ」や岩下商店の「さつま揚げ」などの試食を実施。
- 開催期間中は多くのお客様にご来場いただいた。場所柄、たこの需要が非常に高く、「ボイル柳たこ」はかなりの量を入荷していたが3日目のお昼過ぎに完売した。お客様からは「柳たこが美味しいし安い。」「ほっけの干物が大きい。」「福島はまだ大変だと思うけど、頑張って！」など、多くの応援の声をいただいた。風評等は全く感じられなかった。

ふくしま常磐大漁市 in 大起水産 まぐろパーク 堺本店（堺市）



会場の様子



試食の様子



完売したボイル柳たこ

- アラブ首長国連邦・ドバイで開催された中東最大級の食品総合見本市「Gulfood 2026」には、195カ国から8,500社以上が出品した。中東を始め**近隣市場の販路開拓を目指す日本企業に対して海外バイヤーとの商談機会を提供すべく、ジャパンパビリオンを設置した。**
- **ジャパンパビリオンには北海道、宮城県、茨城県、千葉県からの13社・団体（うち水産関係6社）を含む62社・団体が出品。他国のパビリオンと比べても活発に来場バイヤーとの商談が行われ、ジャパンパビリオン全体で1,100件以上の商談機会となった。**

中東最大級の食品総合見本市「Gulfood 2026」へのジャパンパビリオン出展（アラブ首長国連邦・ドバイ）

■ Gulfood 2026 ジャパンパビリオン概要

- ・開催日：2026年1月26～30日
- ・会場： ジャパンエリア（Dubai Exhibition Centre会場）
水産エリア（Dubai World Trade Centre会場）
- ・出品者数：62社・団体（うち水産エリアへの出品は13社・団体）
- ・主な水産関連品目：イクラ（北海道産ほか）、ウニ（北海道産）、ホタテ（北海道産ほか）、マグロ（愛媛県産）、ハマチ（和歌山県産、鹿児島県産）

■ 主な評価

- ・各地域からバイヤーが来場するため、新規国への販路開拓にはかなり良い機会となった。
- ・中東地域を中心に複数のインポーターや飲食事業者と接点ができた。
- ・既存取引国に加え、新規国からの引き合いも多数あり、今後の交渉次第では輸出額の大幅な増加が期待できる有意義な展示会。
- ・現地のニーズ把握、消費者の当社品への関心度を知る大変良い機会となった。



ジャパンパビリオンの様子



商談風景

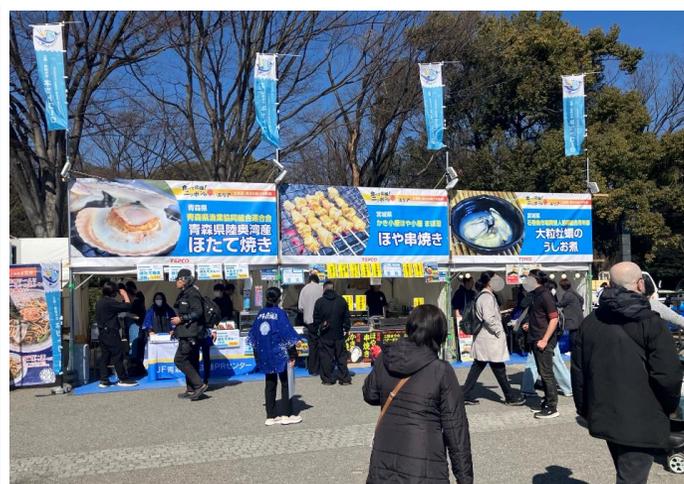
- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、2月20日～23日の4日間、代々木公園内にて開催された日本最大級の魚食イベント「SAKANA&JAPAN FESTIVAL2026」と連携し、「常磐もの」をはじめとした福島県産水産品のPRイベント「発見！ふくしまお魚まつり in 代々木公園」を開催。併せて北海道・東北の水産品をPRする「食べて応援！ニッポンの幸」エリアも開設し、常磐もの極み握り、青森県陸奥湾産ホタテ焼きなどのメニューを計約15,000食販売した。

発見！ふくしまお魚まつり in 代々木公園

- 日程：2月20日（金）～ 2月23日（月）
- 場所：代々木公園内 イベント広場～ケヤキ並木



発見！ふくしまエリア



食べて応援！ニッポンの幸エリア



入口の配置図付近

理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページ**に**バナー広告**を掲載。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

The screenshot shows a webpage titled "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water). It features a navigation menu on the left with questions like "ALPS処理水って何？本当に安全なの？" and "トリチウムって何？". The main content area is divided into sections: "ALPS処理水に係るモニタリング" (Monitoring of ALPS treated water), "ALPS処理水の分析結果" (Analysis results of ALPS treated water), and "東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）" (Monitoring results for the area around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant (tritium in seawater and fish)).

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全上の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

放出完了した水

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました

- ※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
- ※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

現在の状態

異常なし

- ※最新の各機関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

周辺の海の状態はどうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

海水や魚は大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？



- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 1月29日、外務省飯倉公館において、令和7年度地方創生支援・飯倉公館活用対外発信事業・外務大臣及び福島県知事共催レセプション「しあわせの風ふくしま ー復興から新たな未来へー」を実施し、**駐日外交団、駐日外国商工会議所、駐日国際機関、企業関係者他約160名が参加した**ところ、概要は以下のとおりです。
- 本レセプションは、外務大臣と地方自治体の首長との共催で、**駐日外交団等を飯倉公館に招き、地方の多様な魅力を国内外に発信する事業**で、今回が第29回目の開催となります。
- 冒頭、堀井巖外務副大臣及び内堀雅雄福島県知事が挨拶を行い、続いて矢吹貢一福島県議会議長が乾杯の発声を行いました。堀井副大臣は挨拶の中で、東日本大震災の発生から15年を迎え、内堀知事及び福島県の皆様が、震災からの復旧・復興及び風評払拭に全力で取り組んで来られたことに敬意と連帯の意を表しました。また、外務省として、**引き続き、日本産食品に対する輸入規制の早期撤廃、風評被害の払拭に向けた情報発信に取り組む旨**述べました。さらに、**参加者に対し、福島県の魅力と福島県についての正しい情報を世界に広めていただくようお願いしたい旨**述べました。
- 本レセプションでは、**福島県の商品、日本酒、観光、赤べこのほか、震災からの復旧・復興等に関する取組を紹介する様々なブースを設ける**とともに、ステージでは箏演奏のパフォーマンスを行い、**福島県の多様な魅力をPRしました**。

【外務省】 令和7年度地方創生支援 飯倉公館活用対外発信事業 外務大臣及び福島県知事共催レセプション
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03266.html



- 2月5日から2月10日にかけて、カリーヌ・エルヴィウ国際原子力機関（IAEA）原子力安全・核セキュリティ担当事務次長（Ms. Karine Herviou, Deputy Director General of the Department of Nuclear Safety and Security of the International Atomic Energy Agency）が訪日しました。
- 今回の訪日で、エルヴィウ事務次長は、我が国の原子力規制に係るレビューを行った総合規制評価サービス（IRRS）ミッションを閉会したほか、**9日には、東京電力福島第一原子力発電所を訪問し、ALPS処理水の海洋放出に関する設備やALPS処理水の測定や分析を行う施設、また廃炉に向けた取組の様子を視察するとともに、東京電力関係者との意見交換を行いました。**
- さらに、エルヴィウ事務次長は、10日に国光あやの外務副大臣を表敬したほか、外務省、経済産業省、環境省及び原子力規制庁等との間で、**ALPS処理水の海洋放出を含む東京電力福島第一原子力発電所の廃炉や復興再生土の活用に向けた取組、ウクライナの原子力安全・核セキュリティの確保や国際的な原子力安全強化に向けた取組等について意見交換を行いました。**
- 日本政府は、**今後ともIAEAと連携し、東京電力福島第一原子力発電所の状況やALPS処理水の海洋放出の安全性について、国際社会に対し、科学的根拠に基づき透明性を持って丁寧に説明し、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めます。**

【外務省】 エルヴィウIAEA事務次長の訪日（結果）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03312.html

- 2月10日、午前10時20分から20分間、国光あやの外務副大臣は、訪日中のカリーヌ・エルヴィウ国際原子力機関（IAEA）原子力安全・核セキュリティ担当事務次長（Ms. Karine Herviou, Deputy Director General of the Department of Nuclear Safety and Security of the International Atomic Energy Agency）による表敬を受けました。
- 国光副大臣から、今般のエルヴィウIAEA事務次長の訪日を歓迎するとともに、**ALPS処理水の海洋放出を含む東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組に関するIAEAの協力に対して、謝意を述べました。**また、**今後ともIAEAと連携し、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国際社会に対し、科学的根拠に基づき透明性高く丁寧に説明し、国内外の一層の理解を醸成していくことに努める旨述べました。**
- これに対し、エルヴィウ事務次長から、**ALPS処理水の海洋放出は国際的な安全基準に合致している旨説明があるとともに、日本との連携を引き続き強化していきたい旨述べました。**
- 両者は、今後ともIAEAと日本との間で緊密に連携していくことで一致しました。

【外務省】 エルヴィウIAEA事務次長による国光外務副大臣表敬

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03306.html



- 2024年（令和6年）9月に、我が国と国際原子力機関（IAEA）との間で実施することで一致したIAEAの枠組みの下での追加的モニタリングの一環として、**IAEA関係者及び第三国分析機関の専門家が来日し、2月4日及び5日に試料の採取を実施しました。**
- 2月4日、**東京電力福島第一原子力発電所近傍において、IAEA関係者及び韓国、スイス、中国、ロシアの分析機関の専門家により、海水の採水が行われました。**
- 2月5日には、**福島県いわき市内の漁港において、IAEA関係者及び上記分析機関の専門家が、水揚げされた水産物の選定を行いました。**
- 今回の追加的モニタリングは、2024年10月以降、7回目として実施されたものです。
- 日本政府は、今後ともIAEAと連携し、国際社会に対して透明性高く情報提供を行っていくとともに、ALPS処理水の海洋放出の安全性について、国内外の一層の理解を醸成していくことに努めます。

【外務省】 ALPS処理水の海洋放出に関する国際原子力機関の枠組みの下での追加的モニタリングの実施（結果）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_03286.html

【原子力規制庁】 福島県沖の海域モニタリングの状況
<https://www.da.nra.go.jp/view/NRA100015813?contents=NRA100015813-004-003#pdf=NRA100015813-004-003>

【水産庁】 国際原子力機関（IAEA）の枠組みの下で実施する水産物試料採取について
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kenkyu/260128.html>

【IAEA】 IAEA-Led Mission Conducts Marine Environmental Sampling Near Fukushima Daiichi to Support Ongoing Monitoring
<https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/iaea-led-mission-conducts-marine-environmental-sampling-near-fukushima-daiichi-to-support-ongoing-monitoring>

安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



- 2022年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年2月は2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：視察・座談会ご案内）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ(2026年2月)

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視(モニタリング)を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/ℓ)を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内(港湾内を除く)

20km圏内

	エリア	海水の測定結果[単位:ベクレル/ℓ] (2026年1月1日～1月末までに得られた測定結果の最大値)
トリチウム	3km圏内	18
	20km圏内	2.1
セシウム134**	3km圏内	検出せず(<0.93)
	20km圏内	検出せず(<0.0014)
セシウム137**	3km圏内	
	20km圏内	

【参考】トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/ℓ

60,000 国の規制基準(排水口)**

10,000 世界保健機関(WHO)飲料水水質ガイドライン

福島第一原子力発電所「視察・座談会」のご案内

福島第一原子力発電所では、廃炉の「いま」をご覧いただく「視察・座談会」を開催しています。発電所構内をバスで回りながらご案内し、原子炉建屋近くの視察用デッキでは、バスを降車して、ご視察いただけます。さらにお時間のある方は、座談会にご参加いただきご質問やご感想などをお聞かせいただけます。みなさまのご参加をお待ちしております。

視察当日のスケジュール

12:00 廃炉資料館集合

13:40 福島第一原子力発電所視察

15:50 座談会(廃炉資料館)

16:30 解散

**本会場で撮影は禁止です。
**朝ご飯は10:00～11:00(11:00以降)に提供いたします。
**座談会は、ご質問やご感想などをお聞かせいただく場です。

2026年度 開催日程 各回定員:40名(先着順)

	開催年月日	お申込み締切
第1回	2026年 4月11日(土)	2026年 3月27日(金)
第2回	2026年 5月 9日(土)	2026年 4月24日(金)
第3回	2026年 5月23日(土)	2026年 5月 8日(金)
第4回	2026年 6月13日(土)	2026年 5月29日(金)
第5回	2026年 6月27日(土)	2026年 6月12日(金)
第6回	2026年 7月11日(土)	2026年 6月26日(金)
第7回	2026年 9月12日(土)	2026年 8月28日(金)
第8回	2026年10月 3日(土)	2026年 9月18日(金)
第9回	2026年11月14日(土)	2026年10月30日(金)
第10回	2026年12月12日(土)	2026年11月27日(金)
第11回	2027年 2月13日(土)	2027年 1月29日(金)
第12回	2027年 3月13日(土)	2027年 2月26日(金)

お申込み条件 以下の条件を全て満たす方が対象

18歳以上の方
(保護者同伴の場合、15歳以上も可)

福島県在住の方または2011年3月11日時点で福島県在住だった方
*上記の方が含まれるご家族、職場や学校のグループも可(人数上限5名程度)

廃炉資料館(富岡町)に集合できる方
廃炉資料館所在地:福島県富岡町富岡中央三丁目58番地
https://www.tepco.co.jp/fukushima_fm/tepcocommissioning_02/

お問い合わせ先:TEL.080-5555-7988

受付時間:平日9:00～17:00(土日祝日を除く)
Eメール:tepcocommissioning@tepco.co.jp
東京電力ホールディングス 東京電力福島第一原子力発電所 廃炉推進部 視察座談会グループ

参加のお申込みはこちらをご覧ください

<https://www.tepco.co.jp/decommission/zadankai/>

【視察・座談会】